



# 「豊かな自然と文化に育まれて」



大野支会長  
(島川小学校)  
黒田 雅世

稲作発祥の地、大野町は黄金の収穫を終えました。町民憲章「たのしいまち・ゆたかなまち・うつくしいまち・たかまるまち・あたたかいまち」を象徴するかのように町はマルメロの香りに包まれています。平成十八年二月、上磯町との合併を控え、北斗市としてのスタートに準備中です。

本町には、大野小学校、市渡小学校、萩野小学校、島川小学校、大野中学校の五つの小・中学校と、大野農業高校があります。いずれも、本町の歴史と伝統に基づき、地域と密接に結びついた特色ある教育を実践しています。町民の教育に寄せる関心も高く、大野町の郷土資料館をはじめとして、多くの関係機関が、学校の教育活動に支援をしています。また、青少年の健全な成長を促す野球・サッカー等の少年団活動や中学校の部活

動では多くの団体が積極的に交流し合い、素晴らしい成績を上げています。

本支会事務局を担当する島川小学校は、会員数五名の少数ながら、熊木明宏支会幹事長、大場孝子・山田礼子支会会計、宮森仁之学校代表と意欲的に活動しています。

「それ育英の大偉業」の精神を体現すべく、祭典等の地域行事への積極的参加をしつつ、本校の伝統ある環境教育の充実や、地域の基幹産業農業の体験学習を、推進しています。



環境教育「せせらぎサイエンス」3・4年ペットボトルで大野川下りをする。

# 創造し行動する

## 八雲支会



八雲支会長  
(山崎小学校)  
大森 武治

# 職員室

国道五号線を通る時に、『自然美術館八雲』の看板を目にされた方も多いことでしょう。雄大な風景の中にも、金糸・銀糸が織り成す八雲町の景観は、まさに美術館そのものです。自然美術館の中に点在する二十校の小中学校も輝いています。その中から、私が勤務している山崎小学校について紹介させていただきます。

山崎小学校は、来年開校百周年を迎える、八雲町内では最も若い小学校です。今年には白寿に当たります。夕陽会員は、教頭の坂本智士、教諭の長島睦広、平野亜希子の四名です。それぞれ、開校百周年記念祝賀協賛会の、総務部、事業部、行事部の実質的な責任者となっています。

ます。さらに、町複や町研の役員として八面六臂の大活躍をしています。

また、夕陽会八雲支会の事務局校となっています。先輩からの「支会の総会・歓迎会は、支部の中で一番早く行いなさい」という申し送り事項をしっかりと受け止め、本年度は四月二十六日に行いました。川島会長様と川合支部長様のご臨席を賜り、参加者五十名という盛大な会となりました。勿論四名の会員は、司会や会計・しおり作成などに大車輪の活躍でした。まさに創造し行動する夕陽会の姿そのものでした。

さて、八雲町は熊石町と合併し、十月一日に新八雲町としてスタートしました。四月当初の小中学校の会員は七十八名でしたが、旧熊石地区の小中学校には二十名の会員がおります。合計九十八名という大所帯となりました。本年度は、会費や会則等の関係もあり、それぞれが年度当初に計画した活動を行うことになると思います。来年度、夕陽会八雲支会は新会員を迎え、さらに発展するものと確信しております。

支会だより

海と温泉と教育の町



鹿部支会長  
(鹿部小学校)

澁谷 克巳

函館から東大沼を抜けると豊かな海が広がります。内浦湾から太平洋を臨む鹿部町は、源泉が三十六本もある温泉の町です。それぞれの温泉は温度や泉質が微妙に違い、町民の好みも分かれます。有名な「しかべ間 歇泉公園」では、約十分おきに十五メートルほど吹き上がる温泉を眺めながら、ゆつくりと足湯につかることができます。鹿部町の教育施設は、大変充実しています。それは、とりもなおさず町民の教育に対する大きな期待の表れです。芝の張り巡らされた多目的グラウンド。総合体育館。温水プール。これらを活用して、社会教育はとても盛んに行われております。五つのスポーツ少年団活動はもとより、六種目もある教育委員会主催のチャレンジスポーツや親子スポーツ教室。そして、土曜クラブでは、それ以外のスポー

ツ活動や文化活動も体験できます。大人の活動も、たくさんあります。玉入れ大会。野球大会。ソフトボール大会。バレーボール大会。ミニバレーボール大会。パークゴルフ大会。そして、豪快な花火大会で有名な「海と温泉(いでゆ)のまつり」でも、十名一チームで参加するカッター競争が行われます。いろいろな団体が主催するので、同じ目でも二、三の回大会あります。

今年度、鹿部支会は新会員を五名迎えて、二十二名でスタートしました。私達は、自校の教育活動を充実することはもちろん、町民に向けて学校を開き、信頼ある学校づくりを推進しております。ですから、町内の各種大会にも積極的に参加し、町民の皆さんと交流を深めております。今年初めて小学校チームが参加したカッター競争では、中学校チームとともに祭りを大いに盛り上げました。

私達支会員一同は、これからの鹿部町・そして日本を背負っていく子ども達の幸せのために日々力を合わせ教育活動に邁進してまいります。

支会だより

同窓意識の高揚を



長万部支会長  
(国縫小学校)

阿部 武夫

長万部支会は、十一名の新会員を向かえ、OB会員五名、現職会員二十七名の構成です。

今年度の運営計画は、①会員の同窓意識の高揚に努める②会員相互の助け合い・研修・情報交換に努める③本部・支部との情報交換に努めるです。

事業計画は、①本部・支部総会及び懇親会への出席と協力を図る②夕陽渡島の発行への協力を図る③情報交流・資料作成を図る④在町OB会員との協力関係を図るです。今年度の活動の様子を紹介します。

六月七日、夕陽会長万部支会総会・懇親会を長万部温泉ホテルで開催しました。本部から川島会長様、渡島支部から藤枝副支部長様、ご来賓として大田黒教育長様、鶴陵会から伊藤監査様をお招きして会員二十名が参加して行われました。OB会員の参加はありませんでしたが、

美味しい料理と旨い酒で会員同士の交流を十分図ることができました。それぞれのテーブルでは、母校が『人間地域科学課程』として生まれ変わることや学生時代の懐かしい話で盛り上がり、あつという間に時間が過ぎてしまいました。最後に全員で寮歌を斉唱し、同窓意識の高揚を図ることができたものと思います。

五月十四日、渡島支部総会・新会員歓迎会・懇親会に十名が参加し、管内他支会会員と情報交換や交流を図りました。

六月十八日、本部総会・懇親会には七名が参加し、他支部の会員と交流を図ってきました。ある管内で、若い会員の中には同窓意識が低く、会費未納者が増えつつあるそうです。これからは確実に若い会員が減少してきます。現職会員が結び付きを強め、一層同窓意識を高めていくことが大切です。微力ですが、夕陽会の発展・充実のために努力したいと考えております。

最後に、十月二十三日、四十九歳の若さでご逝去された沼田晋子先生(昭和五十三年卒)のご冥福を心からお祈りします。

# 新会員だより

## 念願の

### 養護教諭になって



松前支会  
松前小学校  
須藤 舞

三月に養護教諭特別科を修了し、今年度、新採用になりました。四月に赴任してから、教師の仕事や学校の流れを覚えること、目の前に居る子どもたちを知ることに精一杯の毎日です。

学校では子どもたちと関わっている時間が楽しく、元気をもらっています。一方、様々な理由を抱えて来室する子どもたちに対し、「保健室を出る時には笑顔になってもらいたい！」と思いつつ日々関わっています。

緊張の社会人一年生ですが、相談のり、助言してください。学校や町内の先生方のあたたかさには本当に感謝しています。

ずっと抱いていた夢がかなった今、嬉しい気持ち忘れず、子どもたちの心身の健康のために努力を重ねていきます。未熟な私ですが、これからどうぞよろしくお願い致します。

## 子どもとともに 学び合う教師を目指し



松前支会  
大島中学校  
冬野 恒史

ご縁がありまして、松前町に赴任してまいりました。これまでは道北、留萌管内で勤務しておりました。勤務地も大きく変わり、心機一転、時には道北の厳しい寒さのように、時には道南の暖かな風のように、授業をさせていただいております。

私の教師としてのモットーは、「教育は人なり」です。子どもたちの模範となれる部分が多い教師を目指し、日々努力しています。

「子どもと一緒に学ぶ」と言う言い方を最近よく聞きます。これは「子どもから学ぶ」と言う意味だけではなく、「子どもと同じく、日々学習する姿勢を持つこと」だと思います。

広い意味で、子どもとともに学び合う教師を目指し、成長していきたいと思えます。まだまだ未熟者ですが、これからどうぞ、よろしくお願いたします。

## 「気持ち新たに」



木古内支会  
木古内小学校  
野原 一郎

この度ご縁あつて木古内小学校に赴任してまいりました。それまでは、十勝管内足寄町に勤務していました。十勝には広大な大地がありましたが、木古内にはキラキラと美しい海があり心が落ち着きます。子ども達にとっても素直でかわいいです。

「おはようございます」の朝のあいさつが気持ちよく、一日のエネルギーをもらっています。また何よりありがたいのは、職場や保護者の方々の暖かい雰囲気です。悩みを聞いてくれたり、アドバイスを諸先輩の先生方からいただくことができ、素晴らしい環境に恵まれた私は幸せを感じずにおれません。

毎日の学級経営や吹奏楽部の指導で忙しい毎日ですが、子ども達からエネルギーをたくさんもらい、それを糧にがんばっていかうと思えます。

## 「ルーキーイヤー」



上磯支会  
（上磯中学校）  
佐藤 尚弘

昨年度の教員採用試験を何とか突破し、この四月より上磯町に赴任いたしました。早いもので、気がつくとすでに七ヶ月が経過しました。大学時代を函館で過ごしたため、隣町である上磯町での生活にもすぐに馴染むことができました。

上磯中学校は大規模校で、たくさんの先生方に支えていただきながら、子ども達とともに学びあう、楽しく幸せな毎日を送っています。

とは言え、そんな日々も実際は失敗の連続。授業中に眠たそうな顔でもされた時には、激しく動揺してしまいます。

職場では、「フレッシュではない初心者」と言われていますが、ルーキーらしくがむしゃらに頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 「子どもとのふれあいを通して」



大野支会  
（大野小学校）  
川村 麻美

この度、初任として大野町立大野小学校に赴任し、早くも半年以上経ちました。それまでは臨時採用として、戸井町、松前町、そしてここ大野町と五年間勤務してまいりました。その間、多くの子ども達や教職員のみならずと過ごしたかけがえのない日々は、自分にとって大きな財産となっています。

臨時採用期間は、ほとんどが専科やTTだったので、今年度から念願の担任を持つことができ、気合い十分で充実した毎日を送っています。三十九名の五年生、一人一人の色々な表情や語りかけてくれる言葉一つひとつすべてが、いとおしく感じます。

これからもたくさんの子どもの達と出会い、ふれあいながら、子どもと共に、教師として、人間として成長していきたいと思えます。

## 「はじめての渡島」



八雲支会  
（八雲小学校）  
高橋 純一

私は、初任として北海道旭川盲学校で三年間勤務いたしました。夏は非常に暑く、逆に冬は非常に雪が多く寒いところで、目が見えにくい子ども達と一緒に学習し、とても貴重な経験をさせて頂いたことを感謝しております。

この度、ご縁があつて八雲町立八雲小学校に赴任してまいりました。自由に動き回ることができる子ども達の姿を見て、そのすばらしさに感動しました。

早いもので八ヶ月が経とうとしています。始めは、子ども達の多さに戸惑うこともありましたが、次第に子ども達にも慣れました。

まだまだ未熟者ですが、この八雲の地で、子ども達とともに学び、成長していけたらと思います。どうぞ、宜しく願います。

## 「私を支える優しい笑顔」



八雲支会  
（八雲小学校）  
青山 智恵

私は、後志管内の真狩村立真狩中学校で三年間勤務し、この度ご縁があつて八雲町立八雲小学校に赴任してまいりました。

子どもたちと接していて、いつも思うことは、笑顔とは、何とも暖かく優しい気持ちにさせてくれるものかということです。純粹で明るい笑顔には幾度も助けられました。同時に、この笑顔を守りたいとも感じました。

私自身も、いつも笑顔で子どもたちと接することを一番に心がけています。明るい光が差し込むような、笑顔のあふれる教室づくりをこれからも目指していくつもりです。

最後になりましたが、私が立ち止まった時にアドバイスをくださる諸先輩方には、本当に感謝しています。これからも多くのことを学び、成長していきたいと思っておりますので、ご指導宜しく願います。

### 夕陽会の温かさを胸に



五稜支会  
(渡島教育局)  
大井川 学

平成七年四月、宗谷教育局に赴任して以来、宗谷教育局で三年間、本庁で六年間、後志教育局で一年間勤務し、この四月、渡島の地に戻ってまいりました。  
この間、それぞれの地で同窓の皆様方に大変お世話になったことを懐かしく思い出しております。  
正直に申せば、道南で勤務をしていたときは、夕陽会の方々がたくさんいらっしゃいましたので、そのありがたさに気付けずに過ごしていたのです。しかし、道南を離れてみて、初めて同窓の皆様方の温かさを身に沁みて感じる事ができました。  
十一年ぶりの故郷は、改めて「渡島のよさ」を再発見させてくれ、心の安らぎを覚えさせてくれます。今こそ、お世話になった方々への恩返しの意味も込め、故郷の子どもたちの健やかな成長のため、微力ながら頑張ろうと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### 「同窓のありがたさ」



五稜支会  
(渡島教育局)  
花田 讓

福島町で生まれ、長万部町、上磯町、八雲町、函館市で育ち、その後、渡島管内で十七年間教員生活を過ごしました。  
この度、平成九年四月以来、九年ぶりに渡島で仕事をさせていただいております。  
現在の仕事になってからは、札幌市、日高管内、胆振管内で勤務しましたが、どの勤務地でも多くの同窓の方々にお世話になりました。  
地元を離れて暮らす時、一人でも先輩や同期、後輩がいることは、心強く幸せなことでした。  
初対面の方でも一瞬で安心して話したり相談したりできる方になるのが、「夕陽会」のすばらしさです。  
現在、かつての自分を知られているといふ気恥ずかしさや緊張感をもって仕事を進めておりますが、地元で同窓の方々の中にあるという喜びを実感しております。  
どうぞよろしくお願いたします。

## 終身会員

## の 声

### ボケずに生きたい



昭和三十三年卒 一類  
旦尾 雄司

退職してから十年。事務局から原稿を依頼され、さて、何を書けばよいかと迷う。特に目立つ動きもしていないので自慢できることもない。ただ、馬齢を重ねてきたのだと思う。退職時の送別会の席で、「退職しても褪色せず生き生きと暮らしていきたい。」と宣言したのであるが、永年趣味としてきた囲碁にも熱が入らず、妻から執拗に誘われて始めたダンスも腰を痛めてリタイヤー。全く情けない。教員住宅の生活から離れ、狭いながらも我が家の経営にのり出す。草木や野菜作りの晴耕雨読の生活。最初は順調に育った野菜や樹木。しかし、経験不足の門外漢の悲しさ、草花や野菜は病害虫に悩まされ、手に負えない樹木の成長に、伐採の憂き目を見ることとなる。さて、残り  
最初は書店からの新書版を求めていたのが次第に古本屋、次

に図書館の貸本へと変化する。

読めない漢字に出会うと辞典と

にらめっこ。ボケ防止に役立つ

と思っていたが、辞典や辞書に

たよることが多くなったように

感じる。書く方はもつときびし

い。淋しいものである。悠々自

適の生活を夢見ていたのだが、

先細りに気づく。そう言えば、

国や地方の財政も破綻寸前。災

害や事件、事故、地球温暖化と

風水害。暗いニュースに耳目を

ふさぎたくなる毎日である。声

を大にして叫びたい。まだまだ

ボケ老人とならずに生きたい。

### 地域とともに



昭和三十三年卒 一類  
磯 辺 正 博

学芸大学を卒業してから、教諭として三校、教頭として二校、校長として五校と、教職の道をあゆみ、平成五年三月に退職いたしました。

退職して平成五年十一月に、戸数三十六戸で、町内会の設立にかかわり、会長に推され、今日にいたりました。(現在の戸

数は、百三十二戸)

町内会を設立してから、町内のみなさんと共に、いろいろと活動してまいりました。

上磯町夏まつりに、町内会として山車を出そう。みんなの意向が、目標にむかって、あゆみはじめたことを記します。

何年前から、町内会行事の収益金、特別会計による積立金などで資金をつくり、平成十三年度に具体化にはいりました。

車台の寄付があり、町内会の様々な職業の人たちの労力提供や知恵の出し合いと応援で、立派な山車が出来上がりました。

町の山車格納庫が、すぐそばにあったことも幸いでした。まさに、人の利、地の利の成果であったと思います。

平成十三年の夏から、本年の夏まで、五年続けて、山車行列に参加しています。平成十五年の夏には、山車行列コンテストで、最優秀賞を受賞しました。

山車を作り、行列参加により幼児、小学生、中学生、高校生、そして大人まで、町内のみんな

で楽しみ、あゆんでいくことも大切なことである、と思います。

### 今日の無事に感謝！乾杯！



昭和三十三年卒 一類  
川 嶋 皓 平

三十八年間の教職員生活の緊張感から解放され、これから毎日が曜日を気にすることなく、自分の好きなことを思うようにできると気軽な夢を見ての生活を始めました。

此の度の原稿依頼があつて、新ためて今日迄の生活ぶりを振り返ってみました。

朝六時半起床・冷水に五・六秒つかり、五・六杯の水をかぶり(冷水健康法?)それから、仏壇のご飯と水を取り替え、ローソクと線香に火を灯し、ご先祖様に両手を合わすという一日のスタートは変わりません。

変わったと強いて言えば、年四・五度の家族旅行、友人仲間との一杯飲みを兼ねたドライブや小旅行、その他町内会や八幡宮諸行事のボランティア活動ぐらしの朝け暮れで、何となく十年が過ぎ去り、月日の経つ早さを新ためて思い知りました。

最近、確実に気力・体力の衰

えを感じ、これも仕方ないことだと認めながら、自分の無能力をそつちに置いて、人それぞれ与えられた能力が違うのだからと勝手な理屈をつけて、老齡化社会になった今、老人の酒害者が静かに増えているといわれて

いますが、今さら好きな酒と縁が切れず、だんだん欠けていく身の回りの人を大事にし、迷惑を掛けず、無理をしない生き方を心掛け「今日の無事に感謝・乾杯！」の毎日サンデーを続けております。

### 退職、十年を過ぎて



昭和三十三年卒 一類  
木 村 博

退職してから十年が過ぎた。十年ひと昔というが、この十年の変化もたいへんなものと感じている。身の回りのテレビ、洗濯機、電話などのさらなる進化、カメラ、時計・・・数えあげるのもたいへんである。十年での変わりようもひと昔でなく、二

昔いや三昔とも思われる進歩発展で驚いている。

退職後、新しい経験をと再就職も考えたが、一度味わった自由、気ままな生活に、隠れていたのんびりし性分が目覚めたようだ。また、軽いが持病もあり、適度の散歩と通院が必要になった。それに、晴耕雨読ならぬ晴読雨読の、かつては少しの趣味だった読書と、現職時には遠ざかっていたザルの囲碁を函教互囲碁サークルの仲間と鍛えてもらうことが習慣となつて、この十年が過ぎたように思う。社会の変化や進歩は目まぐるしいが、自分の生活はあまり変わっていないと思つていた。が、先述の電化製品や通院で知った医療の進歩の恩恵を多分に受けている。ありがたい。

今日、心の変化も多様な価値観を見聞きすると心落ち着かないことも多くあるが、健康と体力の維持に留意し、世の変化や進歩発展に強く関心を持ち、これまで得た知識や経験とを合わせて、近隣の人々をはじめ、多くの人々と交流する。そして、楽しい意義のある生活を共に進めていきたいものと思つている。

## 感動と思い出を



昭和三十二年卒 一類  
高島 俊彦

年を取つたせいもあるのかな。かなり涙もろくなり、物事にこだわりすぎる。また、やたらに人恋しくもなっているようだ。

でも、別の言葉で、かつこ良く言うなら、感動することが多くなり、思い出を大切にしていることかもしれない。

三年前、アメリカのホスト・フアーザーを亡くした。命日に、Eメールを通じて、こちらからはお悔やみの言葉ばかり多いのに、家族からは、きまつて「彼との思い出をたくさんありがとう。シーズンをエンジョイしてください」と来る。

駒大苫小牧のV2に今年は大きな感動を受けた。監督は言う。「一戦毎に生徒に学びました。私自身、日々発見の連続で、すごい勉強をさせてもらった」と。退職して十二年、心臓の大手術もやられたし、腸や白内障の手術も行った。このところ、足が痛くて、整形・プールでリハビリを続けている。

いろいろな場所で多くの人会い、以前には聞いたことのない話を耳にする。友人もできたし、思い出も増えた。新しい経験と言えらるだろう。

勤めがないから、時間と場所は無限に豊富だ。改めて学ぶことも多いし、感動の連続である。それらの多くの中から、また新しい意欲も生まれるし、新しく、すばらしい夢が広がってくる。感動と思い出を。そして、「いつでも夢を！」

## 人並みに七十年



昭和三十二年卒 一類  
辻口 直弘

十月中旬に、高校時代の同期会があり、今年は七十才に達したこともあり「古希を祝う会」と言う記念すべき会となった。

顔と頭の境が無くなった者、白髪（はくぱつと読む）の者、容姿は、七十年の歴史を刻み、各々の苦労と努力の跡を表してもいる。話題は、孫の自慢と病歴自慢、そして若かりし頃の脱線自慢が披露されていた。

ところで「人生七十古来希」と言われ、私も「希」な人間に

なつたわけだが、周囲を見わたせば、付合っている方々も皆、希な人達ばかり、希の価値観が下がってしまったている。

気持だけは未だ若いつもりでいるが、諸々の能力は確実に低下しているのを日々感じて

いる。退職当時、学校の年間計画を模して「生活実践計画」なるものをたて、健康維持とBOKE予防のため、規則的な生活を、しようと考えた。教務、視聴覚図書、保健体育、研修の五種目に、日常生活上の事柄を当てはめたものである。

初めの二、三年は、よく頑張つていたが、十年経つてみると、計画の半分も実践できないでいる。それでも何にも困らない。衰えゆく体力、乏しくなった知力で情けないが、他人様にはご迷惑をかけぬよう、そして少しは、お役に立つよう一日一日を頑張ろうと思つている現在です。頑張れるかなあ？

## 編集後記

お忙しい中ご寄稿下さいました、新会員及び終身会員の皆様、誠にありがとうございました。